

株式会社 新城製作所

国内初 四角溶接ナットの
量産化に成功し基幹産業支える

海外
発注可
納期
相談
企画力
自信有
オンリー
ワン技術
メイドイン
ジャパン
試作可
小ロット
量産
対応



1日500万個のナットを作るナットフォーマー工場

主な事業内容

ナットなど締結部品の製造

主な取引先(納入先)

自動車部品メーカー、
住宅メーカー

主な製品

biasナット、溶接ナット、
フランジナットなど業務
内容岸和田とベトナムの
製造拠点から世界へ供給

自動車や住宅、家電メーカーなどの製造現場で広く使われるbiasナットや四角溶接ナットを国内でいち早く量産化し、普及させたメーカーとして知られる。自動車のボディなど、薄い金属板はねじ山を切ることが難しく、他の部品と締結する場合にはbiasナットや溶接ナットを使う。溶接ナットは一般的な締結方法の一つで、溶接で金属板に固定する。biasナットはプレス成形工程内で、金型の圧力によって金属板に下穴を開けると同時にかしめて取り付けられるのが特徴。現在、岸和田市内とベトナムに製造拠点をもち、主に国内や欧米の自動車メーカー向けにナット製品を供給している。

強み
周辺装置や社内でする
検査機器を自社開発

昭和18年、新城功社長の祖父源三氏が大阪市内でボルト製造業を始める。戦争の影響で、中断していた事業を再開する際にナット製造に乗り出す。同30年代に入り、自動車の大衆化の到来を見越して、四角溶接ナットの開発に取り組み、同38年に国内で初めて量産

社長あいさつ

代表取締役社長
新城 功さん

創業以来、ナットやボルトなどのねじ製品を一貫して製造してきました。ものどものをつなぐ締結へのこだわりは会社のポリシーであり、今後もぶれることはありません。永遠に存続できる企業であるためには、顧客が求めているものを提供することが最も重要だと考えています。

主な保有設備

- ナットフォーマー 54台
280—60個/分
- タッパー 132台
180—60個/分
- 画像選別機 54台
4LOT/日
- 計量梱包機 4台
30—60LOT/日



住 所／〒596-0011
岸和田市
木材町17-6

T E L／072-438-7779

F A X／072-438-7499

創 業／昭和18年4月

設 立／昭和34年2月

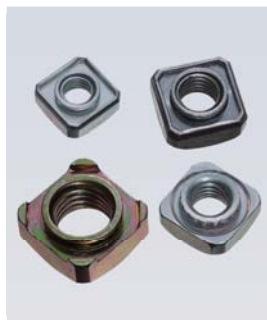
資本金／1,800万円

従業員／100名


<https://www.shinjo-mfg.co.jp/>
顧客
開拓
ねじ製品や締結工具などの
新提案でアプローチ

化に成功した。同46年にはbiasナットの生産を開始するとともに、biasナットの打ち込みや、プレス機への供給を自動で行う装置も自社で製作し、顧客に販売している。社内の製造現場には独自開発した画像選別機を導入し、1日500万個のナット製品を全数検査するという。

近年、自動車業界では脱炭素化の観点からアルミニウムや樹脂への材料置き換えが進み、求められる締結部品も変わりつつある。同社と長く提携関係にあるドイツのアーノルド社は、欧州で異素材接合に適したねじや締結部品を広く販売しており、「新城製作所」はその製品を国内に紹介し、拡販を進める。また、角パイプの内側にbiasナットを取り付ける装置「ミラクレス」や、持ち運びができる取り付け工具「biasナットハンディツール」などの新製品を打ち出し、新たな顧客開拓にも取り組む。新城社長は「顧客ニーズを丁寧にくみ取って製品化する動きを強化したい」と力を込める。



各種biasナット製品



角パイプにbiasナットを装着



biasナットハンディツール